

薩摩川内市立中・義務教育学校の 「部活動の地域展開に向けた計画（素案）」の概要

1 計画の趣旨・現状

(1) 計画の趣旨

ア 部活動を取り巻く環境の変化

- ・ 少子化の進行と生徒の多様な活動ニーズの高まりに伴う部活動環境変化
- ・ 教職員の働き方改革推進と学校単独運営の限界
- ・ 国のガイドラインに基づく地域クラブ活動への移行推進

イ 本市の目指す方向

- ・ 生徒の放課後活動全体の再構築を目指した地域展開の推進
- ・ 学校・家庭・地域・関係団体の連携による多様な活動機会の確保
- ・ 持続可能で魅力ある活動環境の実現

(2) 本市の現状

ア 地理的特性と学校規模

- ・ 市街地と周辺部・甕島圏域における活動環境の格差
- ・ 小規模校における部活動選択肢の限定

イ 部活動の現状

- ・ 市内に約 90 の部活動
- ・ 少子化に伴う合同部活動による大会参加の増加
- ・ 部活動加入率は 59% と低下傾向
- ・ 市内には約 30 のクラブチームが活動

ウ 地域展開の取組状況

- ・ 地域展開部活動数の拡大（令和 3 年度 5 部活動→令和 8 年度 29 部活動）
- ・ 「川内スポーツクラブ 01」を地域部活動本部としての体制整備を推進

エ アンケートから見える現状

- ・ 児童生徒の 64% が地域指導者による指導を希望
- ・ 保護者による送迎・費用負担並びに安全面への不安
- ・ 教職員の負担軽減と持続可能な指導体制構築の課題

2 計画案

(1) 持続可能な地域主体の活動体制への段階的展開

ア 明確な移行スケジュールの設定

学校部活動の地域展開を計画的・段階的に進めるとともに、関係者の理解促進や人材確保を図りながら、持続可能で安定した活動体制の構築を目指します。

イ 持続可能な指導体制の構築

地域指導者と教員が連携する持続可能な指導体制の構築を進め、役割分担の明確化や人材確保・育成の推進、指導の質向上と安全性の確保を図ります。

ウ 教員における地域参画の仕組整備

教員の専門性を生かした地域指導者の確保を図るため、兼職兼業制度を活用し、希望する教員が安心して参画できる環境整備を進めることで、持続可能な地域主体の活動体制の構築を目指します。

エ 平日における地域主体活動のモデル実施と拡充

平日における地域主体の活動体制の構築に向け、モデルケースによる検証を進めるとともに、成果や課題を踏まえた改善と段階的な拡充を図り、持続可能で充実した活動環境の実現を目指します。

オ 費用負担の在り方の整理

地域主体の活動を持続的に運営するため、費用負担の在り方を整理するとともに、公平性や活動機会の確保に配慮しながら、受益者負担や支援制度について検討し、安心して参加できる環境整備を進めます。

(2) 学校と地域の連携による多様な活動機会の拡充

ア 地域クラブの設置と拡充

地域クラブの整備・拡充を進めるとともに、活動環境や支援制度の充実を図り、生徒が学校規模や居住地域に左右されることなく、多様な活動を選択できる環境の整備を目指します。

イ 外部団体との連携強化

学校と地域の連携を推進するとともに、関係団体や地域人材の活用による指導体制の充実を図り、多様な活動機会を確保できる持続可能な運営体制の整備を目指します。

(3) 放課後活動の再構築による活動機会の確保

ア 生徒主体の活動推進

放課後活動（平日）の再構築においては、生徒主体の活動を推進し、生徒一人一人の興味や関心に応じた多様で魅力ある活動機会の創出を目指すことで、主体性や協働性を育みながら、主体的に学び成長できる環境づくりを進めます。

イ 負担の少ない活動形態の整備

すべての生徒が気軽に参加できる放課後活動（平日）の実現に向け、短時間・低負担で参加できる多様な活動機会の充実を図るとともに、継続して参加しやすい環境や柔軟な運営体制の整備を目指します。

ウ モデル実施による段階的導入

放課後活動（平日）の再構築に向け、モデル校による実証的な取組を段階的に進めるとともに、成果や課題を検証しながら、生徒の活動機会を保障する持続可能で安定した運営体制の構築を目指します。